自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202857		
法人名	有限会社のどか		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 のどか		
所在地	札幌市北区5条3丁目10-26		
自己評価作成日	令和7年3月	評価結果市町村受理日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>拓北駅に近い住宅地に立地しており、近くには公園があり 自然豊かな所です 町内会のお祭りに参加し、積極的に参加して町内の人との交流を大事に している事業所です。 学生の実習生も受け入れ世代を超えた交流も行っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0170202857-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR駅や拓北公園にも程近い距離に立地する開設20年目を迎えた1ユニットの事業所である。建物は2階建て住宅型有料老人ホーム(グループハウス)との併設型で平屋建ての当事業所とつながり、緊急時や災害時の訓練等で連携している。当事業所で認知症対応型通所介護も運営し、通所の利用者と、のどかの利用者が生活や行事等で交流しており、グループハウスや通所から利用開始する利用者にとっては安心のできる馴染みの環境となっている。地域との関係は良好で、運営推進会議に町内会役員の協力が得られ、拓北盆祭りへの参加の際は、町内の方々から駐車場や観覧席確保など、利用者が楽しめるよう心遣いや協力を得ている。高等支援学校生からの物品の寄贈や近隣住民からは自宅に咲く花も届けられている。毎月の職員ミーティングでは、家族と医師の同席も得て本人の課題を話し合う機会も設けられている。手が不自由でも箸を持ちたいとの利用者では、その気持ちに寄り添いつつスプーンセットや器の変更、米飯を小さく丸めるなど、利用者1人ひとりの喫食環境を丁寧に整えている。入浴は、機械浴にてADL低下の利用者も湯船に浸かっている。開設時より居住している利用者や長期に渡り勤務している職員も多い。昔取った杵柄の知恵を職員へ伝授する利用者や本人の要望へは柔軟に対応するなど、本人と共に過ごし支え合う関係を築いている。看取り支援も継続し、自分らしく最期まで安穩な暮らしへの支援実現に向け、努力している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関に掲示し職員間で共有し実践している	のどか事業所理念と当理念を根幹とした5つのケア理念を標榜している。事業所理念をパンフレットに明示し、ケア理念と共に事業所内要所へ掲示している。ミーティング時に、折に触れて確認する機会を持ち共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流している	地域の拓北盆祭りへの参加や町内のゴミ拾い、町内会の資源回収に協力している。近隣住民から生花の寄贈や高等支援学校からウエスや演奏収録のDVDが届いている。大学の実習生受け入れや、地域住民の福祉相談に応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等では、認知症状についての報告はしているが、地域の方へは発信できていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みを報告し意見を求めている	町内会長、町内会会計部長、地域包括支援センター担当者、春の歌小規模多機能型居宅介護事業所担当者、併設グループハウス担当者の出席を得て開催している。家族の参加は難しい状況にある。定例報告以外に感染症発症状況や看取りの往診時間変更等、各月の主要事項を報告し、意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール等で報告・連絡・相談している	市や区とは役職者が主にメールでやり取りし、事故報告や制度上の不明点等で意見や助言を得て、適正な運営の維持に努めている。管理者は区管理者会議に出席し情報共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、研修を行っている 日中は施錠せず、防犯上夜間は施錠している	身体拘束等の適正化のための指針を定め、今年2月から併設グループハウスと合同にて、身体拘束廃止委員会を開催している。委員会では利用者の混乱の要因を取り除くケアのあり方を検討し適正化に努めている。年2回これらに係る内部研修を実施している。玄関は夜間帯のみ施錠している。	内部研修の記録の整理に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修をし振り返りを行い防止に努めている		

認知症対応型共同生活介護 のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で皆で話し合いを行っている 利用している利用者はいないが今後必要だと思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている 疑問がないか確認しながら進めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意している 面会した時に意見を伺うようにしている	利用者からの「テレビで大相撲を見てから夕食を食べたい」との意見には、夕食提供を18時に繰り下げ対応している。業務や支援の繁忙により事業所便りは現在、中止の状況であるが、誕生日や記念日に本人の写真を家族へ送り、電話や面会時等の接する機会に家族から労いや感謝の言葉などが寄せられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を聞く機会を設け、反映している	年1回代表者が職員との個別面談を実施し、働く意欲の向上や質の確保につなげている。ミーティングでは、利用者支援の方法や困っている事などを共有し課題解決に向け知恵を出し合っている。食事の副食提供のあり方についても意見が上がり、見直しに至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の事情を、シフトに組み入れて働きやすい環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせた、研修参加を考慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、メール等で情報交換している 他施設の運営推進会議に参加している		

認知症対応型共同生活介護 のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が答えられない場合、ご家族から情報収集して対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き取り支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から必要としている支援を見極め支援している 訪問リハビリを取り入れしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、利用者様同士で過ごせるように介入している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に以前の生活等を確認したり 意見を聞いたりしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	意思の疎通が難しくなってきたので いまは出来ない	面会は居室にて再開し、電話の取り次ぎの他、家族からグリーティングカードや絵手紙が届いている。家族へ手紙を書いている利用者の投函を援助している。家族と外食に出かける利用者や、盆祭りの帰りに本人の自宅前を通り車窓から家を眺めるなど、その都度、機会を捉え支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、お互いを分かり合えるよう職員が調整している		

認知症対応型共同生活介護 のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、相談を受けて 対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示ができる方は直接伺い、出来ない方は表情や以前の生活から読み取るようにしている	直接、利用者から暮らしの希望等の聞き取りや、意向の表出が難しい利用者へは、職員が本人の横に座り、寄り添い関わり合う中で何が本人の願いや想いなのかを本人本位で検討するなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に以前の生活等を確認したり 意見を聞いたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子から現状を把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで職員間で情報を共有し現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて、利用者のニーズや生活の現状を職員間で意見を出し合い、今後のより良いケアを検討している。アセスメントは見直しごとに精査し、本人、家族の意向や医療関係者の意見も反映させ、現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、気づきを記入するようにし、業務日誌・連絡帳で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズを共同生活に差し支えない範囲で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流はなかなかできていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を続けられるよう支援している	月2回の内科医、週1回の歯科医の訪問診療の体制を整え、必要に応じ他科受診を支援している。看護師を職員配置し、症状の早期発見や健康管理の下、適切な医療支援につなげている。薬剤師による居宅療養管理指導書を得ている。	

認知症対応型共同生活介護 のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を、看護師に伝え相談し適切な受診を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院できるよう病院と連携し情報を共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に変化があったときに、今後についてご家族と情報を共有している	利用契約時に利用者が重度化した場合の対応指針を説明し同意を得ている。利用者の状態変化に応じ医師、家族と話し合いを持ち方針を定め、看取りの際は改めて指針を作成し同意を得て開始している。開設時より看取り支援に尽力し、看取り研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、定期的に訓練している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている	R6年3月BCP訓練(研修)として夜間想定地震訓練を実施し、9月日中想定火災避難訓練を行った。感染症発生もあり火災避難訓練は1回に留まっている。R7年3月水害想定で併設グループハウスへの垂直避難を利用者全員参加にて実践的に行っている。災害備蓄品を確保している。	①防火管理者と協同し各種訓練実施記録の整理に期待したい。②災害時における地域との協力体制の構築に向ける予定であるので実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、声かけを気をつけている	入社時に接遇研修を行っている。利用者に対し子ども扱いの言葉かけをしないなど、言葉の内容や対応についてミーティングで話し合い、職員間でもお互いに声をかけ合い留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を、ご家族に相談しながら自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちを大切にしながら入浴を進めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服が着れるように支援している		

認知症対応型共同生活介護 のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は難しくなってきたので、片付けを職員と行っている	献立は職員が1週間ごとに立て、職員が3食手作りし副食は3品添えている。利用者も可能な部分で食事作業に参加している。誕生日は本人の好きなメニューで祝い、季節行事食も工夫を凝らし彩りよく多彩なご馳走を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々で食事の形態をかえて摂取できるようにしている 水分は表にし一目でわかるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行って、個々にあわせた用具を使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を表で管理し、タイミングを把握しトイレで排泄できるよう支援している	排泄・食事・水分チェック表に排泄状況を記録して状態を把握し、排便コントロールも看護師と相談し対応している。自立し布下着用の利用者もいる。尿意を訴える方や時間を見て言葉かけ誘導する利用者もいる。要介護度が高く重度の方はベッド上で交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師に相談し、対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に添えていない時もあるが、体調や気分に合わせて支援している	週2回入浴を支援し、要介護度の高いADLの低下している利用者も機械浴の導入により、湯船に浸かっている。入浴剤や本人の好む湯温に配慮している。肌の状態によりボディソープと石鹸を使い分けている。入浴では本人が力を発揮できるようにしている。入浴を拒むことは無く、浴後のジュースは喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠しているときは、部屋で適宜休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に薬の情報が確認できるようにしている 飲み残しがないように形状を変えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割分担し、達成感を感じていただいている		

認知症対応型共同生活介護 のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良いとき近所の公園などを散歩をして、季節を感じて頂いている	事業所前のベンチでの外気浴や散歩は、どんぐり・拓北公園へ行き、花見は、いきいき公園へ4回に分けてドライブ外出を行った。拓北盆祭りに出かけた際は屋台も楽しんでいる。職員と一緒に直ぐ向かいにあるコンビニエンスストアへ買い物に行く利用者もいる。家族と一緒に外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどは、ご家族から預かって施設で管理しているが、ご本人が財布を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への手紙や電話を積極的に勧めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は、落ち着いた雰囲気、季節の変化を感じてもらうために一緒に飾りつけしている	ダイニングとリビングが一体的な作りで共用スペースは温かみがあり、窓際のコーナーには3つのソファが置かれ、ゆったりと寛げる空間である。壁には季節感ある飾りつけや行事の写真が貼られている。自宅で愛用していた椅子を共用空間で使用している利用者もいる。エアコンや空気清浄機、換気で空調を管理し、トイレの表示も見当識に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は、気の合った人同士になるように配慮しており、一人になる空間もある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた家具を、持って入居している 好きなものを飾っている	居室入り口には表札を掲げ、介護用ベッド、クローゼット、カーテン、照明、ナースコール等が備え付けられた明るい空間である。馴染みのタンスや2人掛けソファ、神棚を持ち込んでいる方や、家族の写真やお気に入りのカードを飾っている方もいる。混乱なく居心地のよい環境をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すりを設置しており、歩行が不安定な方もつかまりながら、自立して過ごせるように配慮している		